

育児からの「気づき」と育児への「気づき」 Leaning from and toward fathering

五味 高志^{1*}
Takashi Gomi^{1*}

¹ 東京農工大学
¹Tokyo University of Agriculture and Technology

父母ともに大学で森林関係の研究を行っています。子供は6歳(年長)と3歳(年中)の娘です。父親の職場は自宅に近いものの、母親の職場は自宅から2時間であり、必然的に保育園の送り迎え、朝夕の食事の準備などは、父親が行うことになっています。子供たちと過ごす時間の中で、様々なことに気がつき、また、気づかされます。もちろん「気を遣うこと」も多々ですが、研究では、野外における観測や実験などを中心に行っていることから、育児の中にある「気づき」や「発見」は、研究における「気づき」と共通する物があるように思います。育児には辛抱つよさも必要に思いますが、研究や大学の教育で学生に接するときにもふと、育児での経験などが頭をよぎります。育児そのものから、時間スケールの長い「フィールド」での「気づき」のきっかけを得ています。発表では、日頃の経験などを話す予定です。

キーワード: 育児, フィールドサイエンス, 父親の視点